

科目名 (英文表記)	地域経済・経営 I (プロジェクト・マネジメント) (Regional Economy and Management I)		
科目区分	基礎科目	単位数	2 単位
担当教員名	宇田川 耕一 (非常勤講師)	ナンバリング	MBA_C_EM 5211
研究室番号	なし	研究室電話番号	なし
Eメール・アドレス	wagadau@gmail.com		

授業の内容及び方法：次頁以降に記載

授業の目的と到達目標：

(目的)

あらゆるプロジェクトには開始、終了の期限があり、経営学で重要とされる「ヒト」「モノ」「カネ」、つまり「人的資源」「物的資源」「コスト」等の制約が働きます。それを受けて、イノベーション(ここでは新たな価値の意味)を創造するプロセスが「プロジェクト・マネジメント※」という営みです。

本授業では、プロジェクト・マネジメントを推進するプロジェクト・マネジャーが身につけるべき以下の5つのスキルについて、ベストセラー『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』のストーリーを追いながら、文献講読・ディスカッションを通して学びます。

1. チームの育成スキル – マネジメントとは何か –
 ⇨『もしドラ』第2章「みなみは野球部のマネジメントに取り組んだ」
 ⇨『もしドラ』第3章「みなみはマーケティングに取り組んだ」
2. 問題解決スキル – 課題設定の力 –
 ⇨『もしドラ』第4章「みなみは専門家の通訳になろうとした」
3. コミュニケーションスキル – 心理学、行動科学等の応用 –
 ⇨『もしドラ』第5章「みなみは人の強みを生かそうとした」
 ⇨『もしドラ』第6章「みなみはイノベーションに取り組んだ」
4. リーダーシップ – 経営学の先哲に学ぶ –
 ⇨『もしドラ』第7章「みなみは人事の問題に取り組んだ」
5. 組織化のスキル – 組織の本音 –
 ⇨『もしドラ』第8章「みなみは真摯さとは何かを考えた」

講師は毎日新聞社で28年間、広告・事業・取材の新聞社業務全般を経験し、勤務の傍ら夜間のビジネススクールで学んだ実務家教員です。51歳で選択定年退職し、2012～2025年に国立大学法人北海道教育大学の芸術・スポーツビジネス専攻教授として「芸術経営学」「組織とマネジメント」といった専門科目に加え、「地域活性化プロジェクト」等の地域実践科目を担当しました。運営していたアートマネジメント音楽研究室では、「アートの力で地方を活性化すること」を目標に、学生たちと日々研究やプロジェクトの実践に取り組みました。退官後の2026年3月からは長野市東部文化ホール館長・株式会社ウィングネット社外取締役を務めております。

その講師のキャリアから得られた地域経済・経営に関する成果や事例を適宜紹介しながら、最新の文献・映像資料等を講読・鑑賞し、受講生と講師がそれぞれの立場を超えて自由に、そして深くディスカッションし、新たな知見を生み出すことを目的とします。

※注意①：現職が長野市を本拠としているため、主に **ZOOM 配信によるオンライン型授業になります(対面授業も2回実施予定です)**。その点を予めご了承下さい。

※注意②：本授業では上記のようにプロジェクト・チームのマネジメントを主に対象とします。JIS Q 21500:2018(ISO 21500:2012)「プロジェクトマネジメントの手引」等の情報処理系の内容については扱わないので、IPA(情報処理推進機構)のプロジェクトマネージャ試験(PM)対策にはなりません。数式は見たくない方でも受講に支障は全くありませんし、むしろ歓迎します。

(到達目標)

プロジェクト・マネジャーに求められる①チームの育成スキル、②組織化のスキル、③コミュニケーションスキル、④問題解決スキル、⑤リーダーシップ、以上5つのスキル(予定)を理解し、実践力を身につけること。

使用教材：

- ・岩崎夏海『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』新潮社(新潮文庫)2015年 ¥605
- ・ピーター・F・ドラッカー『マネジメント[エッセンシャル版] - 基本と原則』ダイヤモンド社 2001年 ¥1,933

論文・ケース(事例)・資料は、モジュールごとに事前にmanabaで配布します。

※参考文献：宇田川耕一『オーケストラ指揮者の多元的知性研究―一場のリーダーシップに関するメタ・フレームワークの構築を通して』大学教育出版 2011年

成績評価の方法：

- ・事前・所感レポート 40%
- ・授業への参加度 40%
- ・プレゼンテーション 20%

評価に不服のある場合は、講師に直接、あるいは不服申立書を以て教務委員長に申し出てください。

履修上の注意事項：

当授業は講師による一方的なものではなく、共に考え抜くことで新しい知見を得ることを目標にしています。事前に十分に準備の上、積極的な授業への参加を求めます。全出席を前提としますが、やむを得ない場合は授業開始前に講師に連絡して下さい。社会人なので一定の配慮はします。ただし、5時限を超えて欠席した場合は、自動的に不可となります。

※なお、社会情勢の変化(感染症等)、受講生の関心分野、所属する組織、受講人数等により授業内容や進め方を変更することもありますので、予めご了承下さい。